参考資料１

第２回　横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会会議録	
日　　時	平成 26 年４月 25 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	市庁舎５階　関係機関執務室
出　席　者	池邊 このみ、金子 修司、齋藤 貢一、佐土原 聡、鈴木 伸治、中村 文彦、 藤野 次雄、森地 茂、山下 真輝（９名）　※敬称略
欠　席　者	新井 鷗子、佐々木 葉、矢ケ崎 紀子、湯浅 真奈美（４名）　※敬称略
開 催 形 態	公開（傍聴人５人）
議　　題	１　横浜市都心臨海部再生マスタープランについて ２　その他
決 定 事 項	－
議　　事	（１）横浜市都心臨海部再生マスタープランについて 【事務局】 ・それでは、第２回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。横浜市都市整備局企画部長の小山でございます。 ・まず最初に、先日開催させていただきました、視察会の報告をさせていただきます。４月１８日に開催させていただきまして、当日は委員１３名のうち７名の委員にご参加いただきました。大さん橋から船に乗っていただきまして、船上から都心臨海部を視察いただき、その後、バスで山下ふ頭、関内・関外地区、みなとみらい２１地区、東神奈川臨海部周辺地区などを視察していただきました。簡単ではございますが、ご報告させていただきます。 ・次に、本日の配布資料の確認をさせていただきます。まず、お手持ちの１枚目にあります次第でございます。次に、資料１としまして、横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会の委員名簿をつけさせていただきました。こちらの内容ですが、前回から委員の役職に変更がございまして、その部分について修正をさせていただいております。次に資料２、第２回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会の座席表でございます。次に資料３、横浜市都心臨海部再生マスタープランの検討資料でございます。なお、検討資料の参考といたしまして、第１回審議会のご意見を要約しまとめましたアイデア集を添付させていただいております。こちらにつきましては、今後の審議会でのご意見を踏まえまして、適宜分類、追記し見直してまいります。最後に、参考資料の１、第１回審議会の議事録、こちらにつきましては、各委員の方々にメールにて確認をさせていただいたものとして、ご報告させていただきます。以上でございますが、何か質問はありますでしょうか。 ・それでは、次に、前回の審議会におかれましてはご欠席でございましたが、今回ご出席されました委員のご紹介をさせていただきます。中村文彦委員でございます。

	【中村委員】 ・どうぞよろしくお願いいたします。 【事務局】 ・次に、４月１日付けで横浜市に人事異動がございましたので、改めて紹介させていただきます。都市整備局長の平原でございます。政策局政策担当部長の桑波田でございます。都市整備局企画課長の大石でございます。以下関係局職員が同席させていただいております。どうぞよろしくお願いします。 ・次に、本日の審議会ですが、委員１３名のうち９名の委員にご出席をいただいておりまして、審議会条例第５条の２の規定に基づきまして、委員の半数以上の出席をいただき、定足数を満たしておりますので、当審議会は成立しておりますことをご報告させていただきます。また、当審議会は横浜市の保有する情報の公開に関する条例、および横浜市附属機関の設置および運営に関する要綱に基づきまして、公開での開催となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けておりますので、ご了承ください。また会議の模様を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、あらかじめご了承下さい。なお、一般の傍聴の方の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。 ・それでは、議事に入りたいと思います。これより先の進行につきましては、審議会条例第４条の３によりまして、森地会長にお願いをいたします。よろしくお願いいたします。 【森地会長】 ・それでは、資料３、前回は１から４までのご説明をいただきましたが、本日の追加分をご説明いただきたいと思います。お願いいたします。 【事務局】 ・資料３の説明。 【森地会長】 ・どうもありがとうございました。前回はやや抽象的な、基本方針的な資料でしたが、今回は具体的なものとなっており、色々なご意見が出るかと思います。よろしくお願いします。 ・外国の都市では、都市ごとに写真集を売っていますが、横浜にはあるのでしょうか。 【事務局】 ・都市デザイン室の方で、主に歴史的建造物を出したものを作成しております。少しイメージとは違うかとは思いますが。 【鈴木委員】 ・横濱まちづくり倶楽部で、横浜を紹介する写真集のようなものを、2000 年位に作っています。確かにその時にも、横浜を紹介するものがないということで作ったが、その後作られていないかと思います。

	【森地会長】 ・大体構成は同じで、最初に簡単な歴史があって、データは大してないが、魅力的な写真が写っているものがありますが、結構皆さん買っていますよね。 【金子委員】 ・あの時は、確か横浜にはそういうものがないということで作りまして。変形バージョンの形のものでしたが、結構ビジュアルに、そしてアクティビティ、人との関係性が分かりやすくて、非常にユニークだった。 【森地会長】 ・日本でそういうものを作ると、人が入っていないのですね。そういうものがあったら、どこが紹介されていたのかなと思ったものですから。 【鈴木委員】 ・先日の現地視察の際に少し思ったことなのですが、新港ふ頭に、客船受入機能の強化ということで、芸大が入っている新港ピアのところに延伸する形で、臨時のターミナル整備を行うということを聞いたのですが、それであれば、むしろこれから土地利用転換が見込まれる山下ふ頭に、そういった機能を持たすということも合理的な選択ではないかなと思ったのですが。港湾計画の検討の中で既に議論されているかと思うのですけれど、どのような理由で新港ふ頭ということになったのでしょうか。 【事務局】 ・港湾局からご説明させていただきます。 ・港湾局の大谷です。よろしくお願いします。資料の１０ページをご覧いただきながらご説明します。ここにありますように、新港ふ頭の客船ターミナルですが、もともと大さん橋を補完する機能として新港地区の客船ターミナルがありまして、今回耐震用の改修と併せて進めていく計画でございます。港湾計画上も、新港地区の客船ターミナルについて、旅客受入機能として今後ともやっていくという計画でございます。 ・なお、山下ふ頭のまちづくりにつきましては、今年度からまちづくりの検討を始める予定でございまして、その中では、ここにありますような横浜港内の水上交通の関係につきましては検討していきたいと思っております。以上です。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【鈴木委員】 ・投資をするのであれば、そういったところを統合して合理的にした方が良いのではと、感想としては思いました。また、耐震バースの分布を見ても、みなとみらいのところと、新港ふ頭のところで、旧市街地側の関内側にないということになりますので、山下ふ頭の一部が耐震バース化することがあれば、全体としては、バランスが優れているのではないかと思います。

	【森地会長】 ・ありがとうございます。 【佐土原委員】 ・今の耐震バースの話と関連しますが、安全安心の都市づくりの部分で、災害時に海からの色々なアクセスができるところが効果的だと思いますし、船を使って色々な対策ができることが重要だと思いますので、そういった観点、具体的には岸壁を整備することだと思うのですが、計画の中に海からの船を使った色々な災害対策を入れていただいた方が良いのではないかと思います。 ・それから、４－３の環境負荷低減のエネルギーに関するところですが、それぞれ拠点ごとにある程度自立的なエネルギーシステムがつくられると思いますが、それらがお互いに連携すること、使い方の違う建物や色々な活動が混在している拠点間を上手く繋ぐことで、効率性を高められることがあります。さらに、災害時に連携していくことで供給の信頼性を高めることができますので、そういう観点をこの中に入れていただいた方が良いと思います。 ・最後にもう１点。全体を通しての取組みの中に、前回も申し上げましたが、情報の技術をどう活用していくかということを入れていただくと、これから色々な展開が考えられるのではないかと思います。例えば、交通に関して、これからマネジメントをやっていくのに、情報の技術がどう使えるのかということがありますし、環境への取組みを見える化していくということが書いてあります。エネルギーの効率的な全体の運用ということについても、横浜市で新規性のある取組みを色々やられてますので、そういうものをどう生かしていくかという観点から、情報の技術は重要と思います。 ・それから、最後のエリアマネジメントに関しましても、これからのエリアのステークホルダーや関係者が地域をしっかりと理解し把握しながら全体で協働して色々な取組みをやっていく中で、情報の技術をつかってこの地域をどう捉えながら、エリアマネジメントをやっていくかということが大事になっていくかと思いますので、そのような視点を、全体のベースに入れていただければ良いかと思います。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【中村委員】 ・今、最後に言われた交通のところですが、資料の中では多彩なモードを入れていくという姿勢は良いのですが、ぱっと見ると並べてあるというだけという印象で、どういう役割分担をするのだろうかと。それは、将来像のところの地域に、地区に訪れている方々のどこを支えるかということ、ここに住まわれている方々のどこを支えるのかということに対して、どうリンクするのかというのを応えなければいけないと思います。例えば、図の構成上仕方ないとは思いますが、１０ページの図だとMM線が見えない反面、１１ページの図だと、新た

	な乗り物との関係が分かりにくくなっています。また、これは今も色々な場所で言われておりますが、超小型モビリティとコミュニティサイクル、MM 線、赤いくつ号、在来線というものは決して仲良くなっていない。それに更に新たな交通など加えていく時に、どのような理屈で整理していくのかを整理した方が良いと思います。 ・もう一つ、この地区の計画であれば、新しい乗り物が街を変えていくのだと逆向きのメカニズムを提案するのであれば､その論理を先にしっかりと整理して、いずれ１０年後にはもっと格好良いものがでてくるかもしれませんので、今のものに拘らず、提案するマスタープランですから、何のための乗り物かというところをしっかりと書く方が良いのではないかと思いました。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【鈴木委員】 ・交通の件ですが、特に水上交通については、以前東京湾の魅力創造プログラムの時にお手伝いをしたことがあるのですが、駅から遠いと、乗換えに時間がかかって、なかなか観光レベルでないと使われないという結果が出ている。もし、水上交通、コミュニティサイクルや、チョイモビのような超小型モビリティなどを積極的に導入していくのであれば、交通結節点のつくり方を根本的に見直す必要があるのではないかと思います。コミュニティサイクルについても、駅からあまり近いところにポートが無い。これは私は伝聞でしか聞いたことがないが、最初に設置するときに、違法駐輪を増やす可能性があるからということで、駅から遠いところに設置されてしまったこともあって、利便性が必ずしも良くない。そういうことがあるので、積極的に行政が音頭をとって、多様な交通手段を統合していく流れをつくっていくことをはっきりと方針として示した方が良いのではないかと思います。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【金子委員】 ・回遊性を高めるネットワークの強化、この中に含まれてくる人が歩いて移動して目的地に行くというときの交通手段はなかなか難しい。これだけ広いエリアを回遊することがどれだけできるのか。特に、水上交通については、レジャーとか、シーズンの良いときに、ついこの間は桜がきれいでしたから大岡川が魅力的でしたが、寒いときには非常にだめですね。そういうところを、いかに有機的に結びつけて利用できるシステムにするかというところは、まさに交通結節点のところが非常に重要だろうと思うのです。色々なアイデアがありましたが、なかなかこれが良いというものは出てこないような気がしておりまして、是非この辺を行政主導型でもよろしいので、よく検討していただきたい。かなり魅力的なことになるかと思いますが、現実的にそれをどう使うか、生活者が

	使えるかというと非常に難しい。シーバスもかなり定期的に運行されておりますけれども、中々生活者が使うということにはならない。それと、ワンコインバスとか色々なものが議論になったかと思いますが、やはりこの５つのエリアをどう結び、かつ有効に移動していくための手段をとれるかということが、大きな問題になる気がいたします。それを是非ご検討いただきたい。 ・それともう一つは、先般、海から改めて色々見させていただいたのですが、予想以上に横浜の丘陵部の緑が見えない、という感じがしました。みなとみらいの開発によって、ほとんど遮られてしまった。逆にそれが新しい都市の景観を生んでいると思いますから、もう少し足元周りを緑でカバーできないか。そこにシンボリックな緑をつくっていくということを考えていくと、例えば、海から、港から見たグリーンのゾーンがあり、風の道ですか、これは非常に魅力的なことだと思いますから、グリーンのマトリックスみたいなものをもっと考えられると良い。逆に、自然に開けた環境的なものを考えてはどうかなと改めて強く感じた次第でございます。瑞穂から少し西の方にいったところで、かなり緑が改修されているところがありましたよね、ああいうのを見ると、やはりこれは魅力的だなと思いました。どなたもそういう感想をお持ちになる。以上でございます。 【森地会長】 ・ありがとうございます。スカイラインの山の方は、もう少し復活できると良いですよね。頭が切られてしまって、スカイラインが緑じゃなくなってしまっていて、昔とは違ってきた。 【藤野委員】 ・身近な話題として、一つは４－４の安心安全と、４－２の回遊性です。たまたま私は東日本大震災のときに横浜市立大学にいて、そこから横浜駅周辺の自宅まで帰ろうとしたのですが、道路がどんどん混んできて、最後この都心臨海部あたりまで来たのですが、広いようで非常に狭くて、逃げようが無くて、最後はやっとパシフィコ横浜の前を通って動いたということがあるので、全体として、回遊性と安心安全というものが、同時に追求できるようなところが視点として入れていただけると良いと思います。重点地域であればあるほどその時々の回遊というのはもちろん良いのですけれど、緊急時にも十分に確保できるような回遊性です。 ・それと、ここに多様な人々ということで、外国人とかクリエイターとかいう話をされていますが、現にここに立地する企業や住まれている方々、ここを選んで住んでいる方、ここを選んで企業活動しているというような方に対し、何が魅力なのか。例えば、私が住んでいるマンションでは、少し普通の人々と違う方々、この近くに公共施設だとか病院とかがあるということで、高齢者の方や定年を迎えた方が引っ越してきています。もちろん近くに買い物の施設があるということと、コンパクトな範囲の中で日常生活を送れるということがありま

	す。その意味で、人をどういう風に呼びこんでいくかというとき、新しい人は非常に重要だと思うのですけれども、今良い環境だということで呼びこんでいる人々・企業にももっと魅力を持たせてという観点も必要なのかなと思います。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【池邊委員】 ・今日は４のところをお話いただいたのですけれども、やや正直言いますと、私東京都民ですから、ここに横浜の地図がなかったら横浜のことが語られているのかなと思ってしまう。会議場やカジノのこともそうですけれど、全体に強力な横浜らしいテーマがないとこれからやっていけないというものに対し、例えば、これから文化芸術施設や会議施設だというものを具体的に横浜らしいものにするとか、普通のモダンなものじゃなくてオペラハウスやなんとか劇場と呼べるものだとか、ウィーンだとソーシャルなダンスも開けるだとか、どういうものをターゲットにして、他の都市にないものにするのだということが、いまいち語られていないので、そこが一番厳しいぞという感じになってしまう。そういう風にして考えたときに、後ろのエリアマネジメントと書いてあるのも非常にもったいない。エリマネは大丸有だとか色々なところで始まった言葉ですが、逆に言えば、横浜市民とか、中華街とか、元町とか、もともとが皆エリアマネジメントを最初からやってらっしゃるんですね。もっと皆、東京でいえば銀座の人たちみたいに、誇らしい市民としてやっていらしていて、なおかつ、私はそこにソーシャルである、社交的であるというか。外人に対してもそうですけれど、先ほど森地先生から人間がいないねというお話があって、世界の国際都市の今の切り口のなかでは、そこでヘルシーなライフスタイルが営まれているかどうかということが一つの基準になっていて、横浜の中でヘルシーなライフスタイルで皆が笑顔でという部分は、ニュータウンかというと決してそうではない。そこに、今まで歴史をもって、横浜港が開港したときからずっと皆が携われてきたソーシャルな部分がある。そうだとすると子供達でも英語がしゃべれるとか、アメリカンスクールとかと連携して、そういう教育施設が入っていて、外国人が入ってきたときでも子供達が簡単なことはしゃべれるとか、そのようになれば良い。 ・もう一つ気になることは、私４年前に造園学会で横浜にお世話になり、とても歴史ある施設を使わせていただいたものですから、とても評判が良かったのですけれども、一方でそのときに関内と横浜駅はどうなんだろうと思いました。桜木町は駅としての機能は昔とは少し離れて、すぐ港に入ってしまいますから。今後の市庁舎ともかんでくるのですけれども、やっぱりヨーロッパとか色々な都市でも、都市の顔を考えたときに、やはり、駅とシティホールというものは、セットで考えるべきだろうと。こういった施設に投資するのも良いのですが、JR が民営化されたとしたら、そこに資本を投下して、横浜らしい駅、皆さん

	もヨーロッパの駅とかご存知でしょうけども、空港にしても駅にしても、着いた途端に、これってその街らしいと。クリエイティブシティらしいイメージも着いた途端に感じられるかというとそうでもないので、その辺にもう一工夫ほしい。馬車道や日本大通り、中華街というものは一つのエリアとして定着しているとしたら、じゃあ横浜駅、桜木町、関内というところが、今後どうなるのか。そういう街の駅と市役所と、それと大規模施設というものを一体として風格ある景観形成の拠点として考えたときに、おのずと横浜らしい空間というものがでてくるのかなということが一つ。 ・それから、緑の話が出てきたので、私もここにかんでいる人間として、ここにも横浜らしさがないなと。おっしゃるように、崖線のところは一番特徴的ですが、そこが市民とか来た人にとって見えるかというと、そうでもない。そこで何を提案したいかなというのは、公園ではなく庭園、ガーデンという感じです。ガーデニングというか、今までの緑の政策は、街路樹があって何本という、質より量という感じできたのですが、端的にいってしまうと、横浜だとチューリップ公園が一つの事例だと思うのですね。昔の公園のイメージから、あそこをチューリップ公園に変えたことで、ものすごく一つの効果を生んでいるし、そこにスタジアムがあるということで、波及効果を生んでいる。ただ、チューリップ公園だということでは期間も少ないし、四季折々の色々な公園が全てそれぞれ変わっていって、そこに、もっと、ヨーロッパだと古い教堂とかが建っていますけれども、そこにクリエイティブのようなものを感じさせるものがあれば、そこを歩いて回れるのに足りるような感じがするのですけれども、確かに公園は幾つかあるのですけれども、じゃあそこを歩いて楽しいだとか、四季折々特徴があるかというと、そうではない。私は公園の人間なので、公園が商品じゃないのが問題だと思っているので、公園を庭園といっているのですけれど、そこでお金を取るわけじゃないのだけれども、そこで集客を競う、品格を競う位の特徴ある公園に変えていく、そのために市民の力とかを、どういう公園にするのかというのを、全部市民参加がやって同じような花壇ができたというのはすごくもったいない話だと思うので、それぞれ違った公園のかたち、そこにホスピタリティがある、ソーシャルな横浜の公園がどういうものなのかということを考えていただいて、緑に一工夫していくことで変わるのではないか。港に降り立った途端に、非常に緑や花が豊かであれば、色々なところに行ってみたいと思う、そうすると、例えば水上バスから見える景観も緑だけではなくて、色々な景観が見えてくるのではないかと思います。少し長くなりました。 【山下委員】 ・色々、こういう風にしたら良いんじゃないかと、手段のアイデアは出ているので、それをもう少し、上位概念と言いますか、全体のロジックを整理する必要があるかと思います。そういった意味で、単なるハード計画と見えてしまうと、横浜市民の方にとって「自分ゴト」にならないのではないかと思います。最終

	的に、横浜市民はどういうライフスタイルになっていくのか、横浜市民とは何かというのがあっての方法論だと思います。その辺りが前回の会議のときに、「横浜の DNA ってなんですか？」というお話をさせていただきましたが、その部分は入れていただいたのですが、更に、「横浜市民とはどのような人達なのか？」、そして「横浜市民を更に豊かにするにはどういう問題があって、どのように解決していかなければならないのか？」が、計画の中でまず本質的に語られていないといけないと思います。色々な方法は、５０年経過するとテクノロジーが進化して変わってくると思いますので、その本質的に解決しなければならないことが何かについて議論しておかないと、手段と目的が逆転する可能性があるという心配があると思って説明を聞いておりました。そういう意味で言うと、水辺とか文化とかを大切にするというのが横浜市民のライフスタイルであり、コミュニティにおける人間関係が深く、そして市民みんなが大切にしているまちやそこでの暮らしをもっとより豊かにするために、どんな手段があるのかなどを踏まえた計画であって欲しいと思います。例えば、IR 一つとっても、文化施設やホールを単独で運営するのは非常に難しい。それを、横浜市民に一流の文化を見ていただくためには、単独でホールを運営できないのだったら、IR の中でやることによって、ハードが維持できるようになるのではないかという考え方もあります。文化を豊かにするために、IR の開発を考えていくとなると、その取組の意味が通じてくるのではないかと思います。どんな風になりたいのかというゴールイメージが、方法論と合うと計画として分かりやすいと思います。 ・シンガポールという都市は、ガーデンシティという愛称がある。なぜガーデンシティかというと、赤道直下でものすごく暑い街なので、木陰がないと生活が大変になります。木陰をつくり、より暮らしやすい都市にするために、たくさん緑を植えているわけです。ある意味、真夏の東京よりもシンガポールの方が過ごしやすい場合もあります。これは、都市が抱える問題の解決と、市民のライフスタイルを豊かにするということの両方を解決しているということになります。海外にはこういう取組はたくさんあって、マスタープランの中には、解決しなければならない問題が明確になっていると、それを解決する手段は色々とあり、そしてそれが最終的には都市のブランドにつながってくると更に良いと思います。 ・最後に、私は、沿岸部のハード整備というものは非常に重要なのですが、やはり最終的にはエリアマネジメントというか、横浜市内のエリアごとのブランド化というものがどう進んでいくのかがとても大事ではないかと思います。東京は、ある意味エリアごとにローカル化しており、東京都民という前にその地区・エリアの住民という意識が強いと思います。エリア毎の自分たちの街を大切にされているので、それぞれのエリアに個性があって魅力があるのです。東京を訪れず、外国人観光客なども、浅草や原宿などエリア毎の多様性のある東京が

	面白いのだと思います。横浜が観光都市として訪れたくなる街になるのだとすると、やはり街の中に色々な個性ある雰囲気があって、多様な地域ブランドがある方が面白いと思します。本計画もハード整備だけでなく、最終的にはまちづくりにつなげていくことを明確にすることにより、市民にとって自分ゴト化されたマスタープランになるのではないか。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【金子委員】 ・まさに、私もエリアマネジメントが鍵だと思う。１６ページの市民参加による持続的な価値増進とコミュニティの項目の中で述べられていると思うのですが、現実にエリアマネジメントという言葉で、積極的に前に動いて行動してこうという市民が、どれ位のパーセンテージでいるかというと、実はほとんどいない。問題はそこにあって、ただ気づかないけれども、エリアマネジメントという考え方のおかげで、生活が享受できていると思う人が出てくれば良いと思うのですけれども。しかけが非常に大事で、それには人がいなければいけない。一番大事なのは生活者というのがポイントとしてあって、そこに、企業、市民、外国人を含めたクリエイターとか様々なジャンルになる人たちが、きちっとコミュニケートできるようなエリマネがなかなかうまくいかない。おそらく、いくら街ごとのブランド化をいっても、実はそこで生活したり、商いをしている人達が、ブランドと感じなくなっている、まだ過去のブランドにしがみついているから、魅力がなくなっているということもある。この辺が一番難しいところと思っているのですが。前回街を見たときの印象として、関内・関外地区の再生ということが今回のテーマなのだけど、なかなか表に出ていない。これは港に続く、横浜の港町一丁目一番地というスタートみたいなところですから、このエリアをどうするのかということを、もっと表に出していきたいなと。単にエリマネだけで論じるのではなく、あそこで公共施設を再構築されるようないくつかの建物がありますけれども、それらの論議をもっともっと積極的に進めていかないと、なかなか関内・関外が忘れ去られてしまうのではないかという心配があります。 【鈴木委員】 ・全体の枠組みの方で、感想を述べさせていただきたいのですが、タイトルだけを見ていくと、説明を読むと分かりますが、メッセージになっていない。例えば、これを見た人が、横浜市に投資してみようかなと、横浜で何かやってみようかなという風に思うような、メッセージ性がもっとあった方が良いのではないかと思います。特に投資する気がおこらない原因の一つに、産業についての言及が基本的に欠けている。例えば、ニューヨークのブルームバーグでは、ホスピタリティ産業を成長産業の一つとして、位置づけるとしており、はっきりとそれを育てるという方針を出し、非常に話題になった記憶がある。この構成

	でいくと、産業について、どういった産業を育てていくのかということが、はっきりとしないというのが問題ではないかと思います。 ・現状に照らして考えてみると、成長が見込まれるセクターとしての創造産業は、実は文化観光局が面倒を見るとしており、経済局は創造産業についてははっきりとした方針は出さない。ところが、文化観光局は創造産業の中でも、デザインだとか、いわゆる狭い意味での文化産業に注目しているので、例えば IT だとかそういった部分というのは今は横浜市の施策の中で、すぽっと抜け落ちている部分だと思います。一方、産業別の人口を見ると、中区・西区の中で、一番伸びているセクターというのは、実は IT 関連。基本的に都心部の衰退の一番の原因は、私は、働く人が減っていることだと考えています。数字は古いですが、平成９年から１９年までの間に、３．５万人の働く人が減っている。 ・年間商品販売額が５千億円、横浜駅周辺、みなとみらい、関内・関外で減っている。大型の百貨店３つ分の商品販売額がなくなったと同じような商業の衰退が起こっている一方で、商業延床が増えていますから、商業効率が著しく落ちている状況にあるという訳です。そういったところで、IR の関係で、商業系の大規模集客施設ができるとなると、なおさら今地盤沈下が起こっている関内・関外、横浜駅周辺も実は年間商品販売額が落ちていますから、そういったところを苦しめることになる。どういった産業を育てていくかというビジョンをもっと明確に出した方が良いかと思います。 ・その中で、IR は、私は積極的に導入すべきだと思うのですが、それは広域に人を集めることができるのだという意味でですね、全体の商業・業務の底上げをしてくれるという期待があります。ただし、一方で危惧されるのは、IR の中で、非常に閉じた、その中だけが利益が上がっていくような形になってしまうと、なかなか街中にシャワー効果が落ちてこない。もしマスタープランの中で、IR について言及するのであれば、もっと街と一体になった IR というのを積極的に打ち出してはどうかというふうに思います。そうでなければ、IR がもたらすデメリットというものは正直あると思うのですが、その部分に対する期待も間違いなくありますから、あえてデメリットを受けようという話にならないと思う。非常に閉じた IR のタイプの開発になると、そこだけに人が集まってしまい、あまり意味がないというふうに思います。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【山下委員】 ・今のお話に関連して、横浜市としての雇用創出などにつながる産業政策など、上位概念としての政策や戦略はあるのでしょうか。また今後伸ばしたい分野の産業などがあれば教えてください。 【事務局】 ・経済局の方で、昨年度、経済成長ビジョンというものをつくりました。そこで、

	一応は整理されています。その成長分野をどの街に落としていくかというところまでは、整理されていません。 【鈴木委員】 ・今回の計画では、そこをリンクしていかなければいけない。 【藤野委員】 ・私も、産業とか、横浜市の雇用政策を講じるためには、財政的基盤も必要と思うので、今後の成長産業をここに集積させるなど、今も集積している企業・産業とのエナジー効果を特に考える必要がある。先ほど、住民の観点からお話しましたが、それだけでなく、企業の観点からしてもここへどう魅力的な産業を持ってくるかというとをまず考える必要がある。どちらかというと、やはり観光とか外部との交流の中でお金を稼ごうというイメージが強いので、まずはもっと内部的に企業収益が上がるようなシステムを導入するような計画というものが必要ではないか。 【森地会長】 ・ありがとうございます。横浜市のランキングがあったのですが、臨海部だけのランキングにしたら、どのような感じですか。私が申し上げたイメージは、5km位に渡って、臨海部ずっとそれなりにきれいで、歴史的な建物もあって、後ろのビジネスセンターともつながって、こんなに大きい規模のものが多くあるとは思わない。他にもあるのですか。 【山下委員】 ・サンフランシスコがあります。ニューヨークも、マンハッタン全部であればそのような都市と言えると思います。 【森地会長】 ・シドニーだって、ぽちぽちですよね、海岸のオペラハウスと。こういうことで、横浜はすごいのだと、しかも地価はこれくらいで、来ている人の数だってシドニーとは桁違いに多いはずですから、ここはこれが売りだという一つのヒントになるかもしれない。 ・もう一つ、皇居の周りでだいたい 4km でしょう。毎日走っている人がいますよね。理由は、信号がないから。ここも、海岸線ばかり見れば、信号はないかなと。あっても少ない。走っている人はどれくらいいますか。 【事務局】 ・皇居ほどではないと思うが、ある程度、夕方とか、ジョギングされている方はいらっしゃいます。 【森地会長】 ・僕の友人なんか、海外の学者ですが、東京に泊まったら、あそこを走りたがる人が多いのですよ。 ・一つの例ですが、もう一回、こういうことをやろうかというのを見たときに、前は見ているのだけれど、現状施設はどうかなと。もうちょっと具体的になっ

	ても良いのかなと。ここに書かなくても良いのだが、発想として。 ・それから、これはこないだ事務局に申し上げたのですが、このエリアのバックにある魅力的な公園や施設はどことどこですかと。もう少しそこをピックアップして、交通を考えるときには、そことの関係もありますので。市民と、それから首都圏の人、それから首都圏外の人、外国人、そういう人達がリピーターになるために、何が足りないのか。あるいは、そういう人達が思っているのは何か、マーケットの対象がはっきりしていない。そこのところを伝えた上で、何かという案が出てくるのでしょうね。それから、まちづくりをすると、特に、韓国とか、中国とか、専門家が見学に来るでしょう。MM は多分きっと沢山来たのでしょうね。もう来ないのでしょうか。 【事務局】 ・まだ来ています。 【森地会長】 ・横浜のまちづくりを参考にしたいと思っているプロフェッショナル、セミプロフェッショナルは。 【金子委員】 ・デザイン室のアクティビティに対して、見学というのはあるらしいですね。 【事務局】 ・関内地区も、都市デザインという切り口では、視察も多いみたいです。 【森地会長】 ・それは、結構大切にした方が良いと思うのですね。発信力がありますから。デザイン室があるとすると、もっとデザイン室を強化するとか。 【山下委員】 ・九州の話ですが、アジアからたくさんの視察団が来るのですが、福岡モデルみたいなものがあって、福岡での色々な公共インフラ、防災、水関係のしくみなどを見に来ています。たくさんの視察団が来るのでワンストッププラットフォームとしての視察を受け入れる専門機関をつくっています。あと、福祉関係では、韓国での介護保険とかの導入に向けたときに、たくさんの視察団が来られて、それに対応できるアジアエイジングセンターという、海外からの介護・福祉関連の視察を受け入れるための機関をつくっています。たくさんの方が視察に来られることは、これもある意味、都市ブランドにつながるものです。その都市に何を目的に視察に来られて、都市の何をどう見えているのかということを知ることは都市戦略を考えていく上で大切なことだと思います。あと九州の熊本なんかは、建築関係の韓国人の方も来られています。横浜に何を見に来たいか、これは正にデスティネーションとして、何が目的になるのか、ということになりますが、もしかしたら横浜の場合、少し分かりにくいかもしれないのではないかと思います。海外の政府関係者が東京に来たら、どこか中央自治体を一箇所訪れたいというときに必ず横浜市に来ているというのであれば、その

	時に何を関心があるのか、しっかり聞くことで、横浜のデスティネーションとしての価値が分かってくると思います。 【森地会長】 ・アジアの大都市圏はどんどん大きくなるので、収まりきれなくなっている。で、ポリセントリック（多極分散型）に変えたい。バンコクにしろ、マニラにしろ、ジャカルタにしろ、マスタープランは皆そうなっている。その時に、東京圏の多極化の良い例として横浜を PR できる。街としては、立派な街ができていることを、見せる。大宮や千葉とは桁が違いますよね。一番肝心だと思うのは、横浜は環状道路があるでしょう。大宮はそんなのがない。必要ともされてこなかった。それは、集積度の違い。 ・最後、前回見せていただいて非常に気になったのが、大さん橋から MM の写真を撮ろうと思っても、良い場所がない。どこから撮っても、汚いものが入ってしまって。それと、海から見ると、MM はあまりきれいではない。ビルが重なってしまって。大桟橋の方から見ると、隣棟間隔があって、グリーンがあって、良いんですけどね。ちゃんとデザインするときに、視点場とかつくって、そういうところから見てもらった方が良いのではないか。これは何を言いたいのかというと、イメージをレベルアップするために、何と何と何をやるのかという話を明確にした方が良いのではないか。かつて田村さんがやっていた、高さの問題だとか、歩道に場所を特徴づけるタイルを埋めたとか、ああいうことをバージョンアップして今何をやっているのですかというときに、例えば MM は駅をやりました、MM の駅も出来たときにはきれいだったけれども、色々なものを置いてしまって、だんだん荒廃した空間になってきている。使い方が悪いのですね。今横浜でもう一回レベルアップして、他と比べて何ができるか、何をしたいのか、何が必要なのかを示した方が良い。そういう意味で、こないだの黄金町は、ああいう規模ですが、面白いですよね。 ・今日のご指摘は、シナリオをもう少しはっきりさせるということですかね。上位計画は、実は前回のテーマだったのですよね。 ・それから、IR が気になるのですよ。横浜で IR をやったときに、横浜の IR はどういう構想ですか。全国で賭博に関する動きがあり、多分皆やりたいという。そのとき、横浜が選ばれるのには、横浜はこういうコンセプトで他と違った特色がある、ということが必要です。 【事務局】 ・IR についてはですね、今年度調査費をとって、具体的に検討します。やるやらないを決断した訳ではないのですが、基本 IR をやれば、地域経済の活性化だとか税収アップという話もあるのですが、今横浜市長はグローバル MICE 都市と位置づけており、先ほどご指摘のあった観光というところに視点をおいてですね、色々と展開していくことを考えています。観光・MICE ということを考えると、アフターコンベンションということがやや不足している部分もあると

	いうことで、アフターコンベンションという観点から IR を見た場合に、先程もございましたように、シアターみたいな話とかですね、そういった施設展開ができるようなことを考えると、IR というのは非常に有効な手段であると考えてまして、横浜における IR をどういうかたちでですね、展開できるのかということを、今年度きちんと調査した上で、判断していこうという状況でございます。 ・また、やはり、海から見た景観とか、例えば東京のお台場も海からの景観ですが、違ってまいりますので、そういったところを。あと羽田からのアクセスは似たようなものだと思いますが、そういった横浜の強みを上手く生かせるような IR 施設はどういうものかというのを具体的に検討していこうと考えております。 【中村委員】 ・昔、お台場と MM の比較という演習をやったときに、MM の施設だけでいうと中々つらいかもしれないけれども、実はその横に関内があり、これまで培ってきたものと新しいものをつなげるというのは、この資料全体であまり強く書かれていない。例えば、田村先生がやった仕事もそうだし、MM だってドックヤードを使ったものや、有名な赤レンガもそうですけれども、色々なものを繋げて支えてきたのだが、今回の資料は白地のところにぽんとおくようなイメージで読まれる。横浜らしさというのは、ありきたりだけれども、これまでの歴史とか文化とか、これまでのまちづくりの蓄積とか、先ほどの写真集に載せられているようなところとか、これまで伝えられているものを直しつつ、持っているものを活かしつつ、というストーリーがもう少し個々のプロジェクトに見えてて、このままいくと、例えば IR と、バラバラとどこにでもありそうなものが載っているだけなのだけれど、そうじゃないという絵がちりばめられないと、やはり他都市との競争には勝てない。是非歴史的な部分や文化を表に出るように、資料に組み込まれると良い。 【事務局】 ・もう一つ追加で、先ほど鈴木先生がおっしゃったように、IR が閉じた空間になってしまうと、周りへのイメージはマイナスイメージの方が強いということなので、IR と Win-Win の関係になるものはどういったものなのかということも含めて、検討させていただければと思います。 【金子委員】 ・IR はカジノがあるということが大前提ですよね。そこは一番の問題であり、かつ魅力であると。他都市が手を挙げるのも、税収が増えるからと。単純な経済論理。私は、そこに観光がどのように乗っかってくるのかというのをきちっとしないと、横浜らしい IR はないと思っています。大事なことだと思います。 【鈴木委員】 ・基本的に、カジノはどこに行っても同じ。カジノの種類が違うということはな

	い。その周りの環境をどう上手くつくるかと。そこで、はじめて差別化できると思う。冷静に考えてみて、国際的に、首都圏、全国レベルで、横浜で人を呼べるイベントというのは、実はあまり多くない。３年に１回の横浜トリエンナーレくらい。例えば、開港祭だとか、プロムナードとかあるのですが、決して多く首都圏からは来ていない。本当に全国から人を集めるというよりは、割と横浜の近郊から人を集めている。例えば、フィンランドのヘルシンキでは、年間 80 の国際的な会議をやっている、フェスティバルシティとして売っている。もし、IR で、MICE 都市として売っていくのであれば、もっとそういった戦略を持つべきではないか。 ・IR から得られる一部の収益が、もし基金化できて、そういった文化芸術活動の資金になるのであれば、やる意味はあると思う。現状でなかなかこれからの財政的な見込みで言えば、そういった文化事業に投資する余裕はないと、これから社会保障の義務的経費がどんどん増大していく中で、どんどんそこに税金を投入しましょうとは、市民感覚としては受け入れがたいものがあると思うのですね。しかし一方で、関東で広域から集めている人で、観光をするために来ているというのであれば、そこから得られたお金をきちっとそこに回して、再投資していくようなお金の流れをつくって、それが初めてエリアマネジメントにつながってくるのではないかとというふうに思います。今、現状の１４ページのエリアマネジメントは、お金がどこから来るかというのが全く言及がない。やはり、大丸有にしても、遊楽天神にしても、原資はどこかから来ている。主に、大手町の大企業や、西鉄といった鉄道会社が、積極的に支援して成り立っている。横浜の場合は、なかなかそういった体制はとりづらい。小規模な事業者が集まっている中で、オール横浜で人を増やさないといけない。シティプロモーションをやるためには、そういった原資をどうつくっていくかということを含め、エリアマネジメントは言及すべきではないか。 【森地会長】 ・韓国は、外国人誘致のために、国際会議をやろうとすると、お金を日本の 10 倍以上も持ってきたりするのですけれどもね。その原資はカジノで、そこに来ているのはほとんど日本人なのですけれどもね。 【池邊委員】 ・IR の中で、リゾートというのがついているのが何なのかということで、やはり今考えているのはカジノだけかもしれませんが、で、集客施設とか宿泊施設も大規模型のものを考えている。そうすると、せっかくのこの全体の再生のエリアの中に、どのくらいの投資効果が色々な街に広がるのかというふうに考えると、宿泊施設一つも、今は団体で中国からも韓国からも来ていますけれども、これから５０年後も団体旅行で来るかというと、パック旅行かもしれないけれども、団体というのはありえなくなってくる。そうなった時に、パリなんかの、オープンカフェが一階にあって、なおかつ上に宿泊施設がある、それでパリら

	しい雰囲気のものができる。そうすると一挙両得で、一階のカフェのところの飲食店としての景観も維持できるし、上に宿泊客ができるということで、安くしかも横浜らしく泊れるということが外国人に分かれば､それで良い話である。要するに色々な外資のホテルをこれから新たに誘致して、今あるホテルをいじめることはなくて、むしろ、今中華街とか日本大通の周りでだめになってくるようなところに、改変できるような投資をしてあげて、そこに何をするかというときに、横浜らしい宿泊施設になっていく。例えば、スカンディアのところとか、ああいう文化をもっと広げていって、そういうものが出来るのは横浜でしかない。で、カジノも、済州島のカジノや東京のカジノと比べて、横浜はハイセンスなものが活きると思うので、そこにクリエイティブシティが入ってくるのだとすれば、シルクドソレイユのようなものを入れてくると、そこに繊維産業だとかアートだとか、若者のクリエイティブなアクティビティと一緒になって入ってくると、そういう文化も育てることができる。そんなふうにやってくと、その拠点としてどんな空間が相応しいのかという意味での、大規模な劇場やホールの考え方もできる。そんなふうに、もう少しストーリーだてて考えると良いのではないか。 【森地会長】 ・ありがとうございます。 【山下委員】 ・MICE 誘致ですとか、IR とか、いわゆる観光都市として上級なところというのは、生活地としての魅力がないと訪れる場所になりません。私達もよく、「観光地」というよりは「生活地」としての魅力がどのようにあるのかということを見ています。外国人観光客も東京に来て、新宿のゴールデン街とか浅草とか日本の生活文化を感じられるところが好きなわけでして、近代的な非日常空間というのはあまり魅力を感じていません。シンガポールも、ハーバーフロント地区は実はそんな面白くはなく、リトルインディアに行ったりアラブストリートに行ったり、ホーランドビレッジに行ったり、まちの中に入っていくことが面白く、決してマリーナベイサンズで一週間過ごしたいと思っている人は誰もいません。本当に MICE 都市であるためには、都心部がものすごく重要で、黄金町のようなところが毎日のように賑っている状況であれば、アフターコンベンションでもそのような地区に入って、野毛で飲んで、黄金町で夜中までアートを見てという、横浜市の生活文化を感じる体験が面白いのです。大阪なんかでも、街中のスナックやバーで演奏したり、面白い場所がいっぱいありますが、そのような生活空間としての魅力がないといけないのではないかと思います。結局、エリアマネジメントというのは、地域の人達だけの安心安全のまちづくりという問題だけではなくて、やはりグローバル MICE 戦略都市としても、都心部がものすごく魅力的でないと、絶対にだめだと私は思います。臨海部の開発で非日常空間がたくさんできると思いますが、より生活空間としての魅力を

	高めるために、そこで色々な会議をやって、街の中に呼び込んでいくという、そういう流れをつくることが非常に重要ではないのかなと思います。是非、横浜市民が楽しんでいる生活空間で、来訪者が飲み歩いていたら横浜市民と夜中まで飲んだという、そういう市民との交流の接点のような場所があるべきではないかなと思います。 【森地会長】 ・間違いなく、伸びてくるのはアジアだと思うが、どこいっても、中国とか、アジアとかで、そこからブレイクダウンされない。台湾とシンガポールは違う。シンガポールのお客は、最近の日本人は、もっぱら日本人が行かないような観光地を訪問している。有名なところはみんな行ってしまったという、そういう人たちにどういう魅力を与えるか。 ・西洋人については、横浜に関わった外国人リストというものはあるはずで、まちづくり、港づくり、公園とか。昔、全国で外国人が関ったところをリストアップしたことがあるのですが、驚いたのが、それを売りにしている観光地がどこにも無かった。日本の発展に、あなたの国のこんな人が貢献して、日本で尊敬されているというのは面白い情報じゃないですか。 【事務局】 ・日本大通りみたいに、プラントンが設計してという話や、下水の遺構などは表示していますが、なかなかそういうのを売りにまではできていない。 【鈴木委員】 ・ガイドブックをよく見ているのですけれども、例えばロンリープラネットという分厚いガイドブックには、横浜の紹介は本当に数ページ、ほとんどない。なぜか台湾のガイドブックには、横浜の紹介はあるのですけれども。やはり、情報の出し方の問題なのか。とにかく、とある方に聞くと、横浜というのは独立した存在に思われていないとのことで、箱根もそうで、箱根・東京とか、横浜・東京とか、東京の一部だと思われている。そういう意味では、多言語でシティプロモーションをやるというのも、エリアマネジメントの一部として必要なのではないか。ここでいうエリアマネジメントというのは、個々で頑張るというものもあると思うが、やはりオール横浜でやらないといけない。みなとみらいの人に、全世界の人を相手に集客しましょうというのも、それはなかなか無理な話である。それぞれで頑張る体制はできているが、オール横浜体制ができていない。そういうことを含めて、オール横浜で外側から人を呼び込むためのエリアマネジメントという位置づけですね。 【事務局】 ・例えば多言語については、4 ヶ国語表記というかたちで、都心部を中心に、そういった方向でやっているが、なかなか目立つことにはなっていない。 【森地会長】 ・先生がおっしゃるのは海外の外国人ということですよね。国際観光協会の人達

	が、毎年外国の色々な旅行業をやっている人達を招いて、年に一回 PR 活動をやっています。 ・それから、インターネット情報の多くが、市町村単位なんですよね。スケール感があわない。それから、市町村単位でやるから、全部入れてしまう。そんな、アメリカ人が来てこれが面白いのかというものまで入ってしまうから、選べない。先ほど山下さんがおっしゃったように、輝かしいきれいなところが面白いのではなく、雑多なところや、それぞれの人達が魅力を感じるところが違うから、どうやって捉えるかですよね。 【山下委員】 ・欧米人の方になればなるほど、訪日の動機の上位に、日本人と交流したいとか、日本の生活に触れたいとかが上がってくる傾向にあります。アジア人の場合は少し違っており、日本人のインサイトの部分よりも、全体的にショッピングとか、テーマパークみたいなところとか、日本の発展している表面的なところを見たいという動機が強い傾向があり、完全に明確に分かれてきているように思います。これから欧米人を呼ぶためには、日本らしさというものがないと、なかなか難しいと思います。ウォーターフロント地区も世界中にたくさんあるわけでして、近代的な街並みというのもどこにでもあるわけですから、ここで日本の何を感じられるのかというのは分りにくくなっているのではないでしょうか。かつてのトーマス・クックが明治に世界一周旅行で横浜に来た頃には、紀行文に書いていたみたいですが、日本の家屋と近代化している建物のコントラストが絶妙に美しく、感動したという感想を述べています。当時はそのようなことが魅力だったようですが、今はどういうことが横浜の魅力なのでしょうか。景観というのは難しく、東京湾の景色と横浜の景色を並べられたときにどう違いを見せるのかも考える必要があると思います。 【森地会長】 ・横浜で日本らしさというのは何なのかというのは、イメージから入っている。大事なのは、例えばショッピングすることに対応できているのかというと、必ずしも対応していない。1970 年代に、京都にミニ秋葉原をつくった。そこに、英語、スペイン語、フランス語や中国語を喋れる店員を入れて、電気の安売り店をつくった人がいる。京都は、京都らしさとか日本らしさをもともと持っているけれども、更に来訪者のニーズに対応した事例です。 【山下委員】 ・長崎のハウステンボスは、ずっとオランダをテーマにやってきたが、なぜ長崎でオランダなのかと前から言われているところもありました。最近、オランダというコンセプトを完全に捨てて、いわゆるヨーロッパのどこかの不思議な町ということをコンセプトにしています。テーマパークのコンセプトとしてオランダに絞り込むことは、日本に来てオランダを見たいのかということになってきますので、コンセプトを変えて、新しいアトラクションを次々入れることに

よって再生したといわれています。他にも、スペイン村とかもありますが、この間もある街でワークショップをしていたとき、「日本のイタリアというコンセプトはどうだ。」いう話になったが、日本のイタリアをわざわざ見に来るのですかねという話になりました。やはり、日本らしさということにもっとこだわっていかないと、デスティネーションにはなかなかなりにくいなと思います。

【森地会長】

・何か、物語性があれば良いのでしょうね。天津では、イタリアの町というのをやっていますが、必ずしも建物をそのままにしているのではなく、イタリアンレストランなどを集積させています。

【山下委員】

・よく「東洋のナポリ」とか昔から言いますがどうしても欧米に憧れがあるのだと思いますが、もうそろそろそういう言い方はやめた方が良いのではと、個人的には思います。

【齋藤委員】

・僕も青年商工会議所の関係で、年に一度はアジアの中心の会議に行ったり、世界の会議に行ったりだとか、毎年そういう所に行くのですが、必ず皆行くとやるのは、日本人ですけれども、その国の歴史に触れたりだとか、食に触れたりだとかいうことだと思うのですね。今後、この横浜の臨海部を中心に、世界から人を呼び寄せて、今順位で言うと世界３０何位かを１０位以内に持っていくという計画であるならば、少し世界から人を惹き付けるために、つきぬけた何かが必要ではないかと思っているのですが。カジノも、スポーツ施設もそうですが、世界の中でも、こうつきぬけた何かを持ってきた方が良いかと思います。

・あと、環境とかでも、先ほど公園の件でも、環境に準じた何か設備を整備するのでしょうけれども、結局興味が無い人にはなにも分らないと思うのですね。来たとしても、目にもとまらないだろうし、何か行事を使って人を呼び寄せるような施策も必要ですし。行事を呼び寄せるためにも、街の整備を含めて、例えばＦ１構想も３０年前にはみなとみらいにはありましたし、今は環境の車ですか、エコで走る車ですか、あんなものも横浜で誘致をしてみたら、色々な意味で人が来てできたりするのではないかなと思います。

・あと、色々な所に行くと、街の移動が大変で、看板もそうですが、僕達が行って看板を見てもなかなかわからないので、車に乗って違うところに行ってしまったりとかですね、だからこう、ロープウェイなんかを使って移動ができたりすると良いといつも思ったりします。外国人の人達が来たときに、どういう風に感じるのかなと、そんなものを考えても良いのではないかと思います。

・あとは、毎年１万人規模のコンベンションを誘致してサマーコンファレンスというのをやっているのですが、今年たまたま会場の都合で予約ができなかった。そんなときに、日本丸の前にちょっとした入江というか、海があるのですが、あそこの中心にステージをつくって、世界で一番大きなセミナー会場じゃない

	ですけど、あそこの入江って、どこのホテルからも見えるのですね。ランドマークですとか、クイーンズもそうですし、桜木町の横の TOC からも、観覧車からも見える。あそこでセミナーなんかをやって、そうすると、FM ヨコハマなんかとも上手くやって、ホテルの上からも聴けるとかですね、世界で一番のセミナー会場をつくろうとかですね、計画したんですけれども。なかなか短期間ではできなくてですね。まあそういったことも考えていっても良いのではないかと思うのですね。 ・もう一点、映画の撮影で使うような場所とかも検討していってもらいたいなと思うのですね。横浜のイメージを世界に発信するには、なかなか良い手法なのではないかと思います。 【森地会長】 ・山下ふ頭から、ロープウェイで結ぶという構想はあるのでしょうか。 【事務局】 ・特にはございません。YES’89 の時に、横浜駅から一部そういうロープウェイを使ってですね、会場に輸送していったということはありますが、ロープウェイ構想そのものは特にございません。 【森地会長】 ・こないだ、東京のオリンピック村と、都心部を結ぶロープウェイ構想というものの話を聞きました。東京では容量的に不足する可能性がありますが、横浜ではどうでしょう。 ・さて、大体あと１０分位ですが。 【鈴木委員】 ・新たな魅力づくりの８ページのところで、中央卸売市場のところに点がないのですが、場外を含めて、食で魅力を発信するということができないだろうかと。今正直な所、ポートサイド地区は元気がないのですが、やはり横浜の街というのは、歩いていく先に何か魅力があるものが、端っこだったり、赤レンガだったり、あるいは山下公園だったり、先に何かがあって、そこに向かって歩いていくという都市構造。市場を中心に、食で人を集められるような、場所というものを構想しうるのではないかと思います。 ・あと、全体の中で、夜の楽しみ方というもの、実は横浜は夜が早く、中華街は９時にはお店が閉まってしまいますし、みなとみらいは１０時がラストオーダーと、意外とコンベンションにこられた方は、東京に飲みに行っている。夜の経済というものを本気で取り組んでも良いのではないかなという風に思います。 【森地会長】 ・ありがとうございます。音楽会とか、コンサートの後の、夜はだめですよね。 【佐土原委員】 ・こないだ見学したときに、大通り公園が生かされていないというのが本当に残

	念に思いました。あれだけ広い良い空間がつくられているのですけれども、あれを再生していくような状況を是非考えていただきたいと思います。 【森地会長】 ・大通りも、色々なものが建ち始めたのですが、まだ容積が余っているのですかと聞いたら、もう余っていないという話でしたけれども。 ・よろしいでしょうか。それでは、今日は大変具体的で多様なご意見をいただき、ありがとうございました。 【事務局】 ・ありがとうございました。本日の議事録につきましては、事務局の方で作成させていただきまして、委員の皆様にご確認いただいたあと、ホームページで公開ということになろうかと思っております。今日は非常に多岐に渡ってご意見をいただきまして、ありがとうございました。事務局としては、ボリュームアップして次回に望みたいと思います。次回の審議会につきましては、６月頃に開催したいと考えております。詳細につきましては、またご相談させていただきたいと思います。それでは、最後になりますが、都市整備局長の平原から挨拶をさせていただきたいと思います。 ・第１回、第２回と本当に熱心な議論をいただき、ありがとうございました。今日は、私どもも、多少踏み込んだところを確認させていただいたところ、3 倍くらいのご指摘をいただきまして、ありがとうございました。エリマネの方向性ですとか、これから検討に取り組みます IR の検討についてご意見いただきました。その辺はもちろん整理をさせていただきますとともに、やはり何を目的にするのか、あるいは誰を相手にするのか、何を伸ばしていくのか、根本的なストーリーを整理していく必要があるのではないかと思う次第にございます。第３回に向けて整理をして、きちっとお答えできるように頑張っていきたいと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。 以上
資料・特記事項	資料１　横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会　委員名簿 資料２　第２回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会　座席表 資料３　横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）検討資料 参考資料１　第１回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会会議録